

全科協ニュース

おもな内容

- ・ 年頭のあいさつ
- ・ 新しい展示の紹介 (五島プラネタリウム)
- ・ ホームサイエンスサロン (科学技術館),
安全技術と最近の機器展 (産業安全技術館)
- ・ 質問コーナー
- ・ 博物館専門職員講習実施きまる

【年頭のあいさつ】

全科協理事長 福田 繁

明けましておめでとうございます。今年も全科協の皆さんの御健康と御活躍を心からお祈りします。

昨年は公害問題に明け暮れました。心ない人間の仕業によって根絶させられ、永久にこの地球上から姿を消されてしまいそうな動植物の話などで心を痛められました。

しかし、人間は天性自然物に対していつくしみの心や愛情を幼い時から持っているが、成人するにつれ利己のため、あるいは人間の共同生活のために自然をどんどん破壊して恬然として恥じないようです。学者も科学の名の下に地球や宇宙まで汚染する実験を続けています。

われわれ博物館人は誰れよりもこの自然破壊に対して敏感でなければならない立場にあります。自然環境を守る特別展を開いて一般を啓蒙するもよし、適切な方法によって自然保護について問題を提起するもよい。博物館人も勇気をもって、立ち上るときではないでしょうか。

福井市立郷土自然科学博物館長 小林 貞七
年頭の辞

新年の展示に、十二支の実物標本一通りを揃えて陳列し、子のお故事来歴だけでも語れたら、さぞ面白がると思う。自然史博物館のやることではないぞと笑われそうな気もする。

私の博物館では設立後20年を経たが、十二支の中満足

に並べられるものは僅かで、辰はともかくとして、頭骨まで登場させたらどうにか揃えそうである。

亥年の昨年、私が貰った猪をうまくあしらった賀状20数枚を展示したら人気を呼んだ。

子の今年、鼠に関係した民俗資料や文献・実物標本等を館の一隅に展示して見たいと思っている。その中から鼠への関心と知識をいくらかでも受取って貰えれば物怪の幸である。

ともあれ、今年も子のごとくそこそこではなく、まめまめしく働いて、鼠算式に資料の充実に努めたいと念じている。子の年の決算 $八万 + \alpha = x$

アリタキ・アーボレータム園長 有龍 瀧雄

新年おめでとうございます。

1971年は世界の政治・経済ともに大きな変動の年でありました。今年も、またはげしく、ゆれ動く年であろうかと思いますが、我々科学博物館人としては、本来の使命に徹し一層の努力をい

たしたいと、年頭に当たり考えております。何卒、一層



の御支援・御指導を賜りますようお願い申し上げます。

愛媛亜熱帯植物園長 窪田 義直

昭和47年の輝かしい新春を迎えるにあたり、一言皆様に御挨拶申し上げます。かねてからの懸案でありました国立科学博物館長福田先生をはじめ諸先生方の御努力御支援により発足いたしましたことは、まことにすばらしい事であり、皆々様と共に喜びたいと思います。今後は各館・園とも親交を深め、家族のように和を中心に団結して、この協議会を発展させ世の中に役立つよう努めようではありませんか。かく申す私は、愛媛県松山市の郊外に居住しております。協会の皆様の当地へお越しの節は御一報下さるようお願いしております。年頭にあたり協議会の発展と皆々様の御健康、御多幸をお祈りして年頭の詞といたします。

NHK放送博物館長 若菜 三雄

新年おめでとうございます。今年もよろしくお願い申し上げます。

放送博物館は、東京の愛宕山にあります。その昔から海拔26米の山上が、城南第一の眺望台として親しまれたところ。昨年3月開館15周年を迎え、記念特別展を開いて、沢山の方々に「放送の歩み45年」を味わって頂きました。今は、大正14年7月12日にラジオの本放送を開始した、あの懐しの東京放送局の局舎の姿はありませんが、変わって白亜の博物館が、その中に放送開始以来の宝物を抱えて、みなさんにお目見得しております。

「アー、アー きこえますか JOAK こちらは東京放送局であります」とアナウンサーが第一声を吹きこんだ、ダブルボタンマイクロホンから、わが国最初のラジオ放送機も現存しております。そのほか珍品かずかず。一度、是非お立ち寄り下さい。

秋吉台科学博物館長 末永 孝

年頭の辞

特別天然記念物「秋吉台、秋芳洞」を如何にして保全して行くか、又これを如何にして御理解して頂くか最

大の課題です。

秋吉台は学術上極めて重要で、明治・大正の頃から広く研究されております。特に秋芳洞は、明治時代には梅原文次郎により世に紹介され、又大正時代には当時山口高商教授E・ガントレットにより広く世界に紹介されたのであります。なお秋吉台は古くは山崎直方、小沢儀明等により調査研究され、日本カルスト地帯の標準地帯として広く紹介されております。條々秋吉台の一部は昭和31年春、米軍の空爆演習地として指定されたが、日本学会会議その他の猛烈な反対運動によりこれを撤回させることに成功したのであります。学界への貢献を目的とする研究機関として本館を建設することになり、昭和34年10月1日開館するに至ったのであります。

神戸国際港湾博物館長 西川 光一

年頭のことは
謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中はいろいろとお世話になり有難うございました。創設以来、次第に狹隘をかこってききました当博物館も今年はどうやら増築の夢がかなえられそうです。その時には、今までなかった収蔵庫や図書室、相談室なども設けて活動を活発にし、一層博物館を利用していただくよう呼びかけるとともに、港湾博物館という他に類例の少ない博物館の特色を一層発揮させるために一同頑張るつもりであります。

今後とも、みなさまの御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

神奈川県立青少年センター館長 土屋 武人

新年おめでとうございます。

情報化時代における博物館の役割については、いろいろ検討しなければならない問題があると思いますが、このような時に全国科学博物館協議会が発足したことは、まことに意義深いことと思います。当館では青少年の豊かな人格形成を目標として、科学ばかりでなく、芸術や福祉の面の総合的施設を持ち、「一日青少年センター」など、全県的に広汎多彩な活動をしてありますが、



やはり、こうした普及教育活動の中で、科学の面に最も困難な問題が山積しております。今後この協議会の組織を通じ、会員の皆様からのご指導いただけることを、大いに期待しております。

末筆ながら、運営にたずさわる事務局の方々のご苦勞に感謝し、この協議会のより一層の発展をお祈りいたします。



産業安全技術館長 上月 三郎

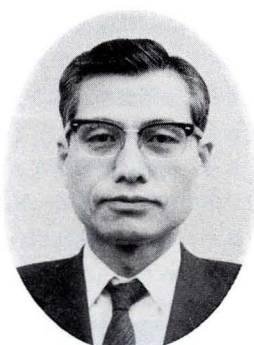
明けましてお目出とうございます。

理工系各館園の皆様には健やかにお越しの事と存じます。

安全と健康は、万人の願いで、いつに変わらないものでありますが、巷間にはこの幸を願う命を一瞬にして奪いさってしま

う災害事故が跡を断ちません。科学技術が長足の進歩をした今日、この災害を制御できずにいることはどうしたことでしょうか。単純にいて、技術が災害を生みだすのか、技術の力が不足しているのか、色々と考え方の相違がありましよう。

広く働く人の安全をテーマにした私どもの館は、新装公開して、本年は第2年度になります。安全の技術を紹介する館として、一般のお役に立つよう心掛けておりますのでよろしくお願い致します。ご安全に。



科学技術館長 田代 茂樹

あけましておめでとうございます。

1960年代の日本経済は非常に幸運にめぐまれ、世界の驚嘆的となるような発展をなし遂げました。博物館界におきましても、昨年度、大きな規模の館のみで、十数館の新設を見、なお、計画中のものも多数あると聞いております。我々この分野の仕事にたずさわるものにとりましては、ご同慶の至りと存



じております。

然しながら、産業の隆盛はその反面に、公害をもたらし、それにとどまらず、あらゆる方面に歪みを増大して参りました。このような時に、科学技術の知識を手落ちなく、よく均衡のとれた知識として、一般社会人に広く普及することが、より一層必要であろうかと思うのであります。

昨夏の、経済界の変転の影響を受けて、展示物の充実、発展には幾多の困難もあることは存じますが、今後とも、全国科学博物館のご発展を切望いたしております。

通信博物館長 福沢 功一

全科協の皆さん、明けましておめでとうございます。

全科協が昨年新しく発足して、初の新年を迎えたわけです。そしていよいよ育成の年を迎えたことになります。

科学博物館が自己満足でなく、より一層社会や国民のお役にたつように発展するためにと願って発足した全科協でした。そこではお互いの情報交換や博物館活動の研鑽が行なわれるよう育成しようということで、種をおろしたのでした。そしてここに育成の新しい年を迎えました。

種を蒔くにも、耕作施肥とそれなりの苦勞はありました。しかし、育成にもそれに劣らない苦勞があるものです。国民のために、よりよき実りを得るためには、風雪や寒霜のきびしさを凌いで育成しなければなりません。

この新年、お互いに育成の苦を共にしつつ、全科協開花の年としたいものです。



交通博物館長 古谷 善亮

迎春の辞

ここ数年の世相が、大変複雑多岐に変化しておりますことを今年は特に強く感ぜさせられます。その感じを深く身に伝えますのは、金融とか交通（通信、放送、情報関係を含む）のように、経済、文化その他あらゆる社会生活、または凡ての企業に直結し、滲透している部門だと思います。当館及び通信博物館のように交通文化を主題としております機構におきましては、独り懐古趣味に捉われず、流通部門の実態を把握していただくとともに、明日の交通の在り方について希望を画いていただきたく

当館としても努力致すつもりでございます。同時に本年当館としての特殊事情として、来る十月に鉄道開業満百年を迎えますので、明日の交通の夢をみるにつけ、この百年間における鉄道の偉大な歩みを記念したいのであります。併せて鉄道に劣らぬ海空及び道路交通の躍進に、日本のもつ交通技術の偉大さをいまさら乍ら、たたえずにはおられません。



大阪市立自然科学博物館長 千地 万造

最近、立派な博物館が各地につくられてまいりました。仲間も多くなり大へん嬉しいことです。かつて明治の初期に博物場なるものが各地でつくられ、やがて、その多くが消えてゆきました。また大正から昭和初期の間にも第2次大戦後にも博物館の増えた時期がありました。現在はわが国における博物館建設の波の第4回目の高まりの時期のように思います。これらの博物館を明治百年の単なるモニュメントにして、ついには忘れ去られるよ

うなものにしてはならないと思います。それには、博物館が地域の人々の生活に結びついたものになければならないと思います。今後、自然史博物館の役割として、1つは展示・教育活動を通じて、自然のもっている永い歴史と、その自然に支えられて発展して来た人間の生活への理解の場であること、第2に、われわれの生活を守り、次の世代の生活の発展を保障するための自然保護への努力をすることが、重要になってくるであります。私たちの調査研究や資料の収集保管の活動が、これらのために振り向けられてこそ、博物館は人々に支持され博物館活動は生き生きとした活気をおびてくるのではないのでしょうか。博物館が社会教育機関として発展してゆく道であり、だからこそ、同時に研究機関としても充実させなければならない理由がここにあると私は思うのです。

私たちの新しい前進のために、全国のみなさん、あけましておめでとうございます。

【新しい展示の紹介】

五島プラネタリウムで

「恒星の進化」の展示を大幅に改良

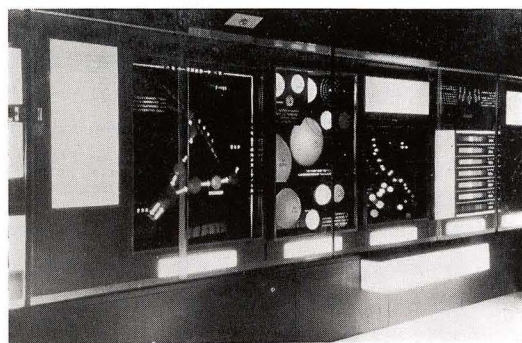
五島プラネタリウムでは開館以来展示してきた、恒星物理関係の展示が内容的にもやや古くなったので、その後のこの分野の研究成果などもとり入れて大幅な改良を行ないました。

改良といっても展示物その物を一新したので全くの新設と同様であります。

この分野は現在の天文学の中でも最も進んだ研究が行なわれており、従ってその内容もかなり短い期間に変わることが予想されるし、また、いわゆる「むずかしい内容」なので、これを学問的正確さと新しさとをそこなわない範囲で、いかに平易にわからせ、「見られる展示」とするかが最も大きな問題点でありました。

そのため次の様な方法をとりました。

- (1) この分野の展示は、どうしてもパネル式の単なる説明に終りがちなので、できる範囲での立体化と動きをとり入れること。
- (2) 全体を、恒星の距離と明るさ、星の色と温度、星をならべる—HR図—、星の大きさ、HR図上にたどる進化の経路、天体の種族の6部に分け、個々の展示において、それぞれの内容を説明するととも



恒星の進化の展示、下側の明るいところにも解説がある

に、全体を通して恒星の進化が理解されるような構成とすること。

- (3) 1 この展示物につき、色分けした二つの説明パネルをつけ、一つは小学校上級程度でも理解出来るような用語と内容とし、他の一つは高校生以上一般を対象とする内容のものとする。

結果として現在のところ、(1)、(3)については一応の成果があるものと考えられます。

(3)については当館としては、はじめての試みですが、その成果いかんによっては、他の展示にも類似の方法を応用してみたいと考えています。

(学芸課 解説員 高橋 朗)

ホームサイエンスサロン第一期始まる

科学技術館で

生涯教育がさげばれる現在、一般家庭婦人層から、まず足元の生活について学ぼう、という気運が高まっているのはご承知のとおりです。生活の合理化のみならず、幅広い科学知識を得て豊かな生活の糧としたいと望まれる社会に対して企画されたのがこのホームサイエンスサロンです。

おもな内容と運営要領は次のとおりです。

主催 科学技術館，朝日新聞社

後援 文部省，科学技術庁，東京都教育委員会

対象 婦人一般 **定員** 400名

会費 1,000円（6ヶ月間第一期分）

内容 定期集会（月1回講演会）

46年11月19日

家庭における性教育 村松博雄（医学評論家）

宝石の科学 一使い方，見分け方—

今井多一郎（日本宝石学協会理事長）

46年12月14日

加工食品 QandA 藤巻正生（東大教授）

科学あそび 一手品のしくみ—

高木重朗（日本奇術連盟副会長）

47年1月11日 親と子と孫の間 一生命のひみつ—

篠崎信男（厚生省人口問題研究所）

頭をよくする料理

松本文子（お茶の水女子大学教授）

47年2月8日

あなたも家庭医 一ガン発見のきめ手—

増淵一正（ガン研婦人部長）

若さを保つ健康体操 湯沢きよみ（美容体操家）

47年3月14日 機械に教わる子供たち

一ティーチングマシンのすべて—

大野連太郎（国立教育研究所）

人間の心 一夢と迷信と科学—

宮城音弥（心理学者）

47年4月11日

科学随想 岡田 要（元国立科学博物館々長）

住いの科学 一台所用品を考える—

松田智恵子（生活評論家）

このほか特別集会として，映画試写会，音楽会などを企画しています。

募集は11月3日から行ないましたが，募集開始後4日目で定員をオーバーするという盛況でした。応募層は35～45才の家庭の主婦が圧倒的で，学歴もかなり高い層が多く，第1回の定期集会は満員のうちに終わりました。

こんど毎年続けていく予定ですが，皆様のご指導，ご助言を賜わり充実を計るつもりですのでよろしく願いたします。

労働災害をどのようにして起こさなくするか

「安全技術と最近の機器展」について

私どもの産業安全技術館では，去る10月5日新装公開を機会に，第1回の特別展として「安全技術と最近の機器展」を開きました。

爆発，倒壊など建物や設備・施設が損壊する事故から，滑った，転んだ，落ちた，挟まれた等，諸々の災害事故といわれるところには，物の損害は勿論，人間が傷ついたり，命を失ったりすることが通例です。そこでこうした現実を労働災害といっています。この労働災害をどうしたら起きず済ませるだろうか？ ということに取組んでいる所が，わが労働省産業安全研究所で，そこに展示施設としての産業安全技術館があります。さて労災防止の手段は？ となると，機械や設備など物の方の安全化と，職場で働く人間の方の動きを正しくすることの2方面に大きくわけられそうです。しかし災害の起り方をたどっていくと，なかなか複雑な構成です。今回の展示は私どものところで編み出した災防手段—安全技術を体系的に解説したものです。

この安全技術の体系は写真に見られるような七つの対策があります。その一つ一つを更に中味に立入って細かく方法論を，パネルで説明しました。全て文字のみの解説です。これだけでは物にならない。そこでそれぞれの技術に対応する関連機器（非破壊検査機器のようなものから安全装置，保護具にいたるもの）が並べられました。本であれば，序説，各論が，一様に圧縮され，一つ飛びに各々の実際技術に使う機器使用法が記述されているという体裁に相成ったのです。見る者にとって，安全技術の体系か，物が主体か，どうも物足り無さを感じるのではないかと思います。基本プラン自体の採り上げる，その範囲の問題，準備作業スタート，の遅れなど，今，反省をしています。私個人の見解ですが，災害現象という，いろいろの原因があって事故になる，時間の経



安全技術の体系

過を追い、しかも一瞬の出来事、そしてその対策を説明するには、展示の対象をしぼって見せることが必要条件のように思えます。私どもを含めた安全屋でない方々の第三者の目からの批判や知恵を希望する次第です。

(臼井 一寿)

ロンドンの鉄道博物館

交通博物館 学芸員 松沢 正二

昨年の夏、ヨーロッパ鉄道視察旅行の途次、数館の博物館も見学しましたが、なかでもロンドン、ニュールンベルグ、ウィーンの鉄道や交通博物館は特に強い印象を受けました。

ロンドンの交通博物館は、玄関前に実物大のロケット号蒸気機関車が、見あげるほど高い台の上に据付けられていました。建物は玄関回りこそこぎれいなタイル張りでありましたが、展示室は古いバスの車庫を改装したもので、天井は骨組が露出していましたが、採光はよかったと思いました。いかめしい出札はなく、鉄パイプの柵で玄関と展示場とが仕切られていて、レジスターを使って入館券を販売して、即入館である。

40両もの実物の蒸気機関車や二階電車などは、活躍当時の姿のままきれいに手入れされ、みがかれて展示されていました。広い通路には柵もなく、レンガ一枚くらいの仕切りで囲まれているだけでした。模型はほとんどないのでケースもなく、すべてが実物による展示構成なので迫力は抜群であって「以って瞑すべし」でありました。



蒸気機関車、二階電車などの実物展示。
子どものいるところが改札口（ロンドンの交通博物館）

新しく入会された館

室蘭市青少年科学館 館長 渡部 道男

☎ 051 北海道室蘭市本町2-2-1

鳥羽水族館 館長 中村 楠雄

☎ 517 三重県鳥羽市鳥羽3-3-6

(所在地の変更)

労働省産業安全研究所産業安全技術館

☎ 108 港区芝5-35-1に移転しました。(昭46.12.1現在)

【質問コーナー】

テープレコーダーの

テープについての質問

展示品説明用のテープレコーダーとテープについてお尋ねします。会員の方々のうちどなたかご存知でしたら教えてください。

エンドレステープのはり合わせ部分、および機械の動作と説明を同期させるため、銀紙をはる場合、これらに使用する接着剤がとけてトラブルを起します。適当な防止法又は別の方法はないものでしょうか。(神奈川県立青少年センター)

質問にお答えします

テープレコーダーを他の機構と連動させる場合は銀紙を使用するより、テープの表面の酸化鉄粉とカーボンをナイフで削り(傷つけぬように)テープを透明にします。その部分に光電スイッチを使用すれば連動できます。この場合、動作速度が比較的速いもの(感度の高いもの)を使用するとよいと思います。当館では、Cds…SANKEN電気 2SPK7-6を使用しています。(交通博物館 展示課 小沢)

博物館専門職員講習実施さまる

全科協ニュース第1号でふれました「博物館専門職員講習」は、このほど国立科学博物館の協力のもと、国立社会教育研修所できたる昭和47年度から実施されることに文部省の方針が決定しました。

この講習は、自然系博物館職員の資質の向上をはかるとともに、自然科学系学芸員の養成確保の現状にかんがみ学芸員の資格取得に資することを目的としているものです。

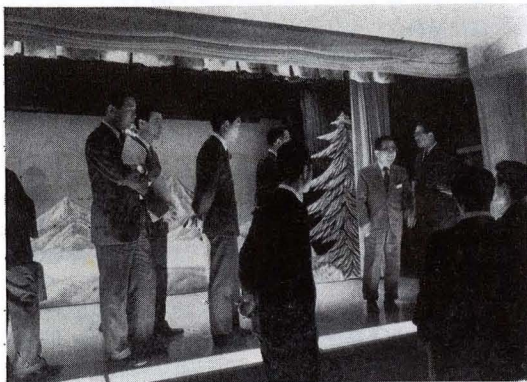
講習の日程、場所、細かい内容等については、目下、国立社会教育研修所でとりまとめているところですが、現在までに判明したところは大略次のとおりです。

1. 名 称 博物館専門職員講習
2. 実施機関 国立社会教育研修所
3. 協力機関 国立科学博物館
4. 対 象 自然科学系博物館に在職していて学芸員の資格を取得しようとする人々を対象とする
5. 定 員 60人
6. 研修時期と期間 7月下旬～8月下旬
研修場所 国立科学博物館・国立社会教育研修所
研修科目 博物館学、教育原理、社会教育概論、視聴覚教育、自然科学系専門科目2科目

第1回全科協博物館事業研究会

盛会裡に終わる

全科協ニュース、その他でお知らせしましたように、



照明の舞台裏の解説をうける参加者

全科協では、科学博物館の諸活動の専門的、実務的な事項について、各館園が相互に研究しあうとともに、博物館の運営の円滑を図る趣旨から研究会を行なう準備を進めてきましたが、去る11月30日から12月2日までの3日間にわたって、全科協博物館事業研究会を開催しました。第1回は「展示技術の基本と運営——とくに照明器具類とその諸性質について——」をテーマとしてとりあげ、国立科学博物館、東芝科学館を会場にして実施しましたが、参加者は北は北海道から南は四国まで22名で、講義等はいずれも予定時間を超過する熱の入りようで、参加者も日ごろ問題点となっている事柄を相互に話し合い、予期以上の成果をあげてつつがなく終わることができました。以下、研究会の概要を日を追って紹介していきます。

第1日目(11月30日)

午前、10時40分予定どおり開会。理事長あいさつ(福田繁理事長病気のため代理)に引きつづき、11時から東京工業大学名誉教授星野愷先生の特別講演「科学博物館の展示に期待するもの」が行なわれました。

特別講演は、講師が、かつて、欧米諸国の科学博物館を見学したときの体験をもとに、優れた展示の実例を豊富に紹介しながら科学博物館のあるべき姿を論じられたものであり、科学博物館の運営、展示等に多くの示唆をあたえるものでありました。最後に、博物館の資料は研究資料であることは言うまでもないが、それが展示されたとき、観覧者に感動を与えるものでなければならない、そして、その感動が次から次へ語りつがれるような展示にすることがもっとも必要であると強調されました。

午後、研究討議「展示技術の問題点をさぐる」が行なわれましたが、参加者から、それぞれの館の展示の基本的な考え方や実態、展示技術の問題点について、予定時間を超過するほど活発に意見がのべられました。これらの問題点をまとめると、展示資料を入手する方法についての展示以前の問題と、展示解説の方法とその故障等による現状の処理についての問題にしばられました。これらの問題点については、「助言者」豊口デザイン研究所の豊口協氏から、解答が示されましたが、「企画のよしあしによって展示の全てが決定する」との助言は、われわれ博物館人にとって銘記しなければならないことでありました。

第2日目(12月1日)

午前、東芝科学館兵頭正明氏による「科学博物館における展示の照明と見え方」の講義であり、「照明とは」からはじまって「人間の視覚」「色覚」「立体感覚」「明暗に対する反応」「説明ボードの見え方」「まぶしさ」「光の質」「魅力的な展示とは」に分けて、照明に関する基礎的な考え方を、心理学的な立場を考慮して講義されました。

午後、東芝施設事業部角取猛司氏の「科学博物館における照明設計と照明器具」の講義であり、新宮殿や東京オリンピックの各種施設の照明設計を担当した立場から、展示資料に対して考慮がはらわれねばならない点として「適当な明るさ」「演色性がよい」「資料固有の美しさを強調する」「光源の正反射が観覧者の目にはいけない」「資料保存のための考慮がなされている」等について、豊富な経験に基づき具体的に話されました。

第3日目(12月2日)

川崎市小向の東芝科学館に会場がうつされました。

午前、科学館の一般観覧であり、説明員(女性)の案内で、約1時間にわたり見学しました。重電気からエレクトロニクス、家庭電器にわたるまで、むずかしい科学的な原理やその利用応用について、われわれに誘いかけ引きつけるような案内の仕方には、幾多の学ばねばならない点がありました。

午後、兵頭氏の「東芝科学館における照明の利用について」講義と実地指導であり、最初に照明の発達に関するスライドが上映されその後電球、蛍光灯の種類、照明の正しい使用方法等について、質問に応えながら話がすすめられました。実地指導については、展示品の照明のよしあしや、その効果などについて楽屋裏をみせながら指導されました。

予定より30分延長し、16時30分閉会、解散しました。

なお、この研究会は、第1回目でもあり、会員の皆様の本当に切実な問題を煮詰め、さらに解決の方法と方向についての十分な用意は事前になし得なかった感みは残っておりますが、すくなくとも科学技術系博物館のプロによるプロらしい研究会のきっかけとなったということは確信しております。

要は、今後これをどう展開して行くかにあると思いますので、参加者各位はもちろん、他の会員の方々からも、どしどし御批判、御提案を下さいますようお願いしております。

会員館園の博物館活動

全科協では、科学博物館施設における教育普及活動の企画、実施等の参考資料とするために、まず会員館園の諸活動の実施状況をみなさんに知っていただきたいと思い、去る10月、資料の提出をお願いしましたところ、多くの館園から回答をいただきましたので、とりえず資料そのものを逐次紹介することにしました。それぞれの事業内容の詳細については実施館園に資料の提供をお願いしてください。

1. 昭和46年4月から11月までに実施した特別展。()内は、実施館、開催期間、その他の順に記してあります。(全科協ニュースNo.2に掲載した、12月、1月の特別展は省略)

菊花展（室蘭市青少年科学館，10・24～11・2）リチャード・トレビシック展（交通博物館，4・13～5・9）日本の船の歴史展（同前，7・20～8・1）航空の歴史展（同前，9・21～10・3，東京ソリッドモデルクラブ協力），鉄道の唱歌の旅展（同前，10・12～11・7），鉄道と人間写真展（同前，11・12～11・21，学生鉄道研究会連盟協力），原子物理学の発達とラザフォード生誕百年記念展（市立名古屋科学館，10・31～11・14，ニュージーランド大使館，中日新聞社共催），全国の県花・県木・県鳥展示（津山科学教育博物館，4・1～），恩賜林御下賜60周年記念展（恩賜林記念館，5・11～5・13，山梨県共催），デコ祭（愛媛亜熱帯植物園，7・15～7・31），亡びゆく鳥展（福井市立郷土自然科学博物館，3・10～4・20，市教育委員会，県野鳥の会）海の生物展（同前，10・4～11・14，市教育委員会），夏の特別展示会（鳳来寺山自然科学博物館，7・10～8・20），秋の特別展示会（同前，11・13～11・25）野鳥展（佐賀県立博物館，5・20～5・30），有明玄海漁撈習俗展（佐賀県立博物館，6・29～7・10），坂の下縄文遺跡展（同前，7・20～8・31），理科作品展（同前，

9・18～9・22（市），9・24～9・30（県），佐賀市理科教育振興会，市教委，佐賀県理科教育振興会共催，県教委後援）日本古美術展（同前，9・11～10・3，東京国立博物館，県教委共催），画聖鉄斎名作展（10・7～10・22，県教委，日本経済新聞社共催），明治・大正・昭和名作美術展（同前，11・15～11・28，文化庁，県教委共催），椿花展示会（アリタキ・アーボレータム，4・13～4・15），春の花木展（同前，4・25～5・3）庭に小鳥を展（高尾自然科学博物館，4・25～5・31），木の実・草の実展（同前，10・15～11・31），海をひろく（松島水族館，5・20～5・23，石巻ダイビング），冷食フェア（同前，7・8～7・13，山形新聞社，十字屋），郵便100年児童画展（通信博物館，11・9～11・28），虫歯予防ポスター展（川口市立児童文化センター，6・4～6・13），外国児童画展（同前，毎月1か国），川口市小学生図画作品展（同前10・31～11・19，市青年会議所共催），NHK伸びゆく放送展（NHK放送博物館，4・25～5・5，山口博物館，NHK山口放送局共催），NHK放送展（同前，10・12～10・24，NHK北海道本部共催）（次号につづく）

【会員館園の紹介】

観音崎自然博物館

神奈川県横須賀市鴨居4丁目南門

☎ 239 ☎ 0468 (41) 1533

昭和28年7月1日開館，木造モルタル平屋，敷地面積9700㎡，建物面積（のべ）1171.5㎡，うち展示室750㎡

海と魚との対話に明け暮れている観音崎自然博物館と水産生物研究所は，水中活動を一層安全かつ効果的にするため，第一線職員全員が潜水士の資格取得に乗り出し，すでに昨年7月1名合格，残る2人も12月末までには取得を意気込んでいます。

と申しますのは，当館にはマダイの人工養殖の大水槽を初め，大小各水槽に，1日1千余トンの海水をポンプアップしており，そのため年間を通じて少なくとも月に一度以上は海にもぐって揚水ポンプの点検や導水パイプの掃除をするほか，夏期臨海実習期には，毎日2時間前後海にはいらねばならぬからであります。こうした蔭の力がコンスタントに継続されているお蔭で，10数年来研究を続けてきたマダイの人工養殖も一応量産段階にまで漕ぎつけ，多年唱導してきた養殖水産実現への第一歩を踏みだすことができるようになりました。

あ と が き

○1972年を迎えました。全科協ニュースを，わが国の科学博物館施設発展のため広場として育てるために努力したいと思います。いっそうのご協力をお願いします。

○わからないことは，みんなで相談して行くことが博物館をよくする近道だと思います。このような考えから「質問コーナー」を作りました。どんなことでもお寄せ



観音崎自然博物館の全景

ました。

最少限の研究予算で最大限の研究効率をあげようとするには，平素こうした地道なことにまで気を配ってやってゆかねばならぬところに，この博物館の特殊カラーといったものが感じられるような気がします。責任の重大さを益々痛感しております。

なお，職員は，館長星山俊二ほか6名おり，水産生物研究所長を医学・農学博士四竈安正が，また，水産生物の生態，病理，生理および増殖部門については，大学でこの部門を専攻した山本和稔（主任），大久保数彦，安藤均の3名が担当しています。

ください。そしてこれに対するよい解答をおもちの方は投稿してください。編集部でも疑問の解決に飛びまわります。

○事務局から 昨年末，博物館の設置および運営に関する基準試案についてご意見をお願いしましたが，科学博物館の将来にもつながる問題でありますので，ご意見をお寄せくださるよう重ねてお願いします。